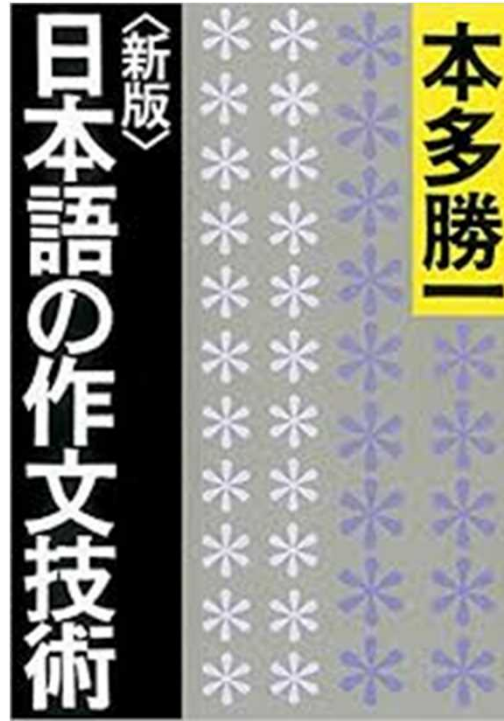


# 読む側にとってわかりやすい 文章を書くコツ

自然科学研究科修士1年 小栗美香



朝日文庫

## 目的

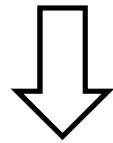
読む側にとってわかりやすい文章を書くこと

× 上手な文章

## 日本語と英語の違い……

英語：主語が重要（文に必ず主語がある）

日本語：述語が重要（文に主語がない）



述語を中心に文を考えて構成していく。

## 修飾の順番

- ①節を先にし、句をあとにする
- ②長い修飾語は前に、短い修飾語は後に

## 句読点のうちかた

- ・テンというものの基本的な意味は、  
思想の最小単位を示すものだ。

## 段落

段落はかなりのまとまった思想表現の単位である。

## 修飾の順番

①節を先にし、句をあとにする

節: 一個以上の述語を含むフレーズ

句: 述語含まない文節

例)

{  
白い紙  
横線の引かれた紙  
厚手の紙

## 修飾の順番

①節を先にし、句をあとにする

例) { 白い紙  
横線の引かれた紙  
厚手の紙

白い厚手の横線の引かれた紙	×
横線の引かれた白い厚手の紙	◎
横線の引かれた厚手の白い紙	◎
厚手の白い横線の引かれた紙	×

## 修飾の順番

②長い修飾語は前に、短い修飾語は後に

例) {  
Aが紹介した。  
私がふるえるほど大嫌いなBを紹介した。  
私の親友のCに紹介した。

## 修飾の順番

②長い修飾語は前に、短い修飾語は後に

例) {  
Aが紹介した。  
私がふるえるほど大嫌いなBを紹介した。  
私の親友のCに紹介した。

- × Aが私がふるえるほど大嫌いなBを私の親友のCに紹介した。
- × Aが私の親友のCに私がふるえるほど大嫌いなBを紹介した。  
私がふるえるほど大嫌いなBをAが私の親友のCに紹介した。
- ◎ 私がふるえるほど大嫌いなBを私の親友のCにAが紹介した。
- × 私の親友のCにAが私がふるえるほど大嫌いなBを紹介した。  
私の親友のCに私がふるえるほど大嫌いなBをAが紹介した。



## 句読点のうちかた

テンというものの基本的な意味は、思想の最小単位を示すものだ。

数学のように文を考えてみる

$$3A+2A=(3+2)A$$

例)

渡辺刑事は血まみれになって逃げだした賊を追いかけた。

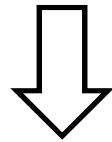
(刑事は+賊を) 追いかけた。

刑事は  
賊を } 追いかけた。

## 句読点のうちかた

例)

渡辺刑事は血まみれになって逃げだした賊を追いかけた。



?

- ① 渡辺刑事が血まみれ
- ② 賊が血まみれ

## 句読点のうちかた

- ① 渡辺刑事は血まみれになって  
逃げだした賊を } 追いかけた。

渡辺刑事は血まみれになって、逃げだした賊を追いかけた。



- ② 渡辺刑事は  
血まみれになって逃げだした賊を } 追いかけた。

渡辺刑事は、血まみれになって逃げだした賊を追いかけた。



## 句読点のうちかた

戦前からの業界の流れを知る幹部も

若手も

今年の漁獲やかつての北洋について聞くと

うしろめたそうな顔になった。

戦前からの業界の流れを知る幹部も、若手も、今年の漁獲やかつての北洋について聞くとうしろめたそうな顔になった。

戦前からの業界の流れを知る幹部も若手も、今年の漁獲やかつての北洋について聞くとうしろめたそうな顔になった。

## 句読点のうちかた

“、”をとってはいけなかった

(戦前からの業界の流れを知る) 幹部も若手も  
今年の漁獲やかつての北洋について聞くと

うしろめたそうな顔になった。

戦前からの業界の流れを知る幹部も若手も、今年の漁獲やかつての北洋について聞くとうしろめたそうな顔になった。

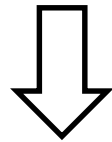
# 句読点のうちかた

## おまけ1)

- ① 日本の一部右翼は、
- ② 主観的には  
いかに
- ③ 戦後しばらくは  
アメリカ独占資本に
- 「愛国的」であろうとも、
- 奉仕する
- 「売国的」
- 行為を
- 重ねてきた。

## 句読点のうちかた

文章をわかりやすくするためのテンである。



重要でないテンはうつべきでない。

## 句読点のうちかた

### おまけ2)

不要な句読点はうたない。

並列もできるならば“、”ではなく、“・”で並列して書く。

例) 出席したのは山田と中村・鈴木・高橋の4人だった。

× 出席したのは山田・中村・鈴木と高橋の4人だった。

例) × イヌとネコとサルがけんかした。

○ イヌとネコとサルとがけんかした。



## 段落

段落はかなりのまとまった思想表現の単位である。

段落のいいかげんな文章は、骨の重傷を負った欠陥文章といわなければならぬ。改行はそれほど重要な意味をもっているからこそ、ここで章をあらたにして論ずるのである。段落のいいかげんな人は、書こうとしている思想もまたいいかげんで不正解で、非論理的だとみられても仕方がないであろう。

(本文P239,240から引用)

ぜひ手に取って読んでみてください。

## 本書の目次

- 第一章 なぜ作文の「技術」か
- 第二章 修飾する側とされる側
- 第三章 修飾の順序
- 第四章 句読点のうちかた
- 第五章 漢字とカナの心理
- 第六章 助詞の使い方
- 第七章 段落
- 第八章 無神経な文章
- 第九章 リズムと文体
- あとがき



自分の満足できるまで、卒論書いてください。

そして、楽しんでください。